

# 表計算ソフトとその歴史

## 表計算ソフトとは

もともとは企業のための会計処理のために誕生したソフトですが、現在ではデータを処理・解析する目的で、次のような分野に幅広く使われています。

- 会計や統計などの計算・処理、データベース(名簿・住所管理など)
- プログラミング(マクロ機能)

表計算ソフトの特長は、次のようなものがあります。

1. 表やグラフが作れる。
2. データを変更すれば、自動的に表やグラフの内容も変わる。
3. マクロをプログラムすれば、複雑な処理も自動的に行なえる。

## 表計算ソフトの歴史

「表計算ソフト」は、英語では"**Spreadsheet Software**"(スプレッドシート・ソフトウェア)といます。操作の練習を始める前に、表計算ソフトが「いつごろ」「なぜ」登場し、現在までどのように開発されてきたのかを見てみましょう。

### Visi Calc (最初の表計算ソフト)

世界初の本格的なパーソナルコンピュータApple II(1977年登場:Apple社)用のソフトとして、最初のパソコン用表計算ソフト "**Visi Calc**"が登場したのは1979年です。当時ハーバード大の学生、Dan Bricklin(ダン・ブルックリン)が夢の中で見たアイデアを元に、Bob Frankstonと開発しました。

Visi Calcはすぐに人気となり、Visi Calcを使うためにApple IIを買う人も多く出てきて、パソコンの普及のさきがけとなりました。

### Lotus 1-2-3 (現在の表計算ソフトのもと)

1981年に、現在のWindows系パソコンのもととなる、IBM PC(米IBM社)が発表されました。その互換機も次々と発表されました。

Visi Calcを買収した、米Lotus Development社がVisi Calcを元に、IBM PC用の表計算ソフトとして、"**Lotus 1-2-3**"を1983年に発表しました。Lotus 1-2-3もVisi Calcのように大ヒットし、IBM PC互換機の普及に貢献しました。

### MS Excel (最も普及している表計算ソフト)

Lotus 1-2-3が登場するよりも前に、Microsoft社はIBM PC用に"**Multiplan**"というソフトを発売していましたが、Lotus 1-2-3に比べて動作が遅く、人気がありませんでした。

しかし、Windowsが登場させたころ、すでにMacintoshで人気のあった"**Excel**"を、1987年にWindows用も発売するとすぐに人気となり、事実上の標準の表計算ソフトとなりました。

[次へ](#)進んでください。